

「不思議な千代田線」

東京メトロ千代田線。北千住駅の地下ホームにある路線である。この路線には、不思議なことがいくつかある。まず、一つは西日暮里駅でホームが二段になっていること。路線の分岐なら上下のホームになっても不思議ではないが、そうでないのに大手町方面のホームが上で、北千住方面が下にある。このつくりは、西日暮里だけではなく町屋や千駄木、根津の駅でも同じ構造だ。なぜか。

地上を歩いてみるとよくわかる。町屋から西日暮里にかけては尾竹橋通りの下。商店街でもあり、道幅が狭い。さらに西日暮里から先は不忍通りで、こちら道も狭い。地下鉄は大きな道路の直下に作られるのだが、残念ながらこの路線の上にある道路は狭い。今なら大深度地下鉄にするのだろうが、その当時はそれもできず、上下2段に線路を作ったのだろう。そのため、ホームも上下になっている。

さらに、地図をみると千代田線が隅田川の下を通る部分で二つに分かれている。上りと下りでそれぞれトンネルがある。そのまま緑町2丁目と3丁目の境辺りを二つに分かれて通り、宮元町郵便局の下で合流し、細い路地の下を歩いて大踏切に抜ける道に出る。隅田川の下を通るため、地盤が悪く、二つに分けたのか。

北千住から綾瀬まで切符を買うと140円。東京メトロの最低料金が170円なのにここだけなぜか安い。北千住から綾瀬までの区間は千代田線の電車に乗るが、常磐線としてJRの最も安い料金で計算される。しかし、常磐線かと思うとそうでもない。大手町から綾瀬まで250円。これは東京メトロの料金でJRの料金が加算されていない。北千住と綾瀬の間はどちらの路線か。正解は、常磐線と千代田線のどちらも兼ねているという。千代田線の車両基地が北綾瀬にあるのが原因とか。そのため料金上不思議なことが起きてしまう。

いろいろなことを疑問に思うことは大切なことである。今ではネットを使って簡単に調べることができるし、図書館に行けばいろいろな資料がある。単なる雑学なのだろうが、それで得た知識よりも、なぜだろう？ 調べてみよう！とする探求心が、tubuyaki きっと将来の社会生活に役立つはずだ。

5月26日 校長 鈴木 幸雄

◆問題 A地点から5km離れたB地点へ行きます。はじめは毎分70mで歩いていましたが、途中から毎分90mに速度を上げ、結局、1時間ちょうどでB地点に到着しました。速さを変えたのはA地点から何mの距離の地点でしょうか。方程式を使うと解けますが、余力のある人は方程式を使わない方法を考えましょう。